

## 止まり木



## あれから30年。1.17に想う



1995年、1月17日午前5時46分。6434人の尊い命が犠牲になった阪神淡路大震災の発生から30年が経ちました。改めて追悼の意を表するとともに犠牲者の方々のご冥福をお祈りいたします。震災で培われた「きずな・支えあう心」「やさしさ・思いやり」の大切さを次世代へ語り継いでいくため、今日、2025年1月17日(金曜)に「阪神淡路大震災1.17のつどい」が、神戸市中央区の東遊園地で行われます。みなさんはもちろん生まれていなかった時代ですが、忘れてはならない歴史として少し詳しく説明をします。「阪神淡路大震災」は1995年(平成7年)1月17日5時46分52秒に兵庫県淡路島北部(あるいは神戸市垂水区)沖の明石海峡(北緯34度35.9分、東経135度2.1分、深さ16km)を震源として、マグニチュード7.3の震度で起こった兵庫県南部地震のことです。近畿圏の広い範囲が大きな被害を受けました。特に震源に近かった神戸市の市街地(東灘区、灘区、中央区(三宮・元町・ポートアイランド)、兵庫区、長田区、須磨区)の被害は甚大で、近代都市での災害として日本国内のみならず、世界中に衝撃を与えました。犠牲者は6,434人にも達し、第二次世界大戦後に発生した地震災害としては東日本大震災に次ぐ被害規模でした。校長先生は当時、大阪の南の方に住んでいましたが、大きな揺れで目を覚ましました。何かが落ちてきたのかと思うぐらいの衝撃、何をどうしていいかわからず、しばらく布団からも出れず、揺れが収まるのを待つしかありませんでした。今もあの瞬間のことははっきりと覚えていて、慌てて出勤の準備をし、車で勤務校に向かいました。(当時はまだ車での通勤が許されていた時代です。)ラジオから地震のことは伝えられるものの詳しい状況は全くわからず、ただただとんでもないことが起こってしまったという不安だけがあふれてきた記憶があります。さらには、途中から渋滞が始まり、まったく進めない状態に。このままでは間に合わないと思い、途中の公衆電話から学校へ連絡。(携帯電話は今の時代のように普及されていませんでした。)学校にいた先生から「休校になったから気を付けて家に帰ってください」と言われ、自宅に戻るということがありました。本当につらい思い出です。

当時は当たり前のことがあたり前にできない中学生が多数いました。どうか、みんなはあたり前のことがあたり前にできることに感謝して、1日1日をより一層大切に過ごしてください。